

平成 26 年度事業報告書

I 公益財団法人京都市環境保全活動推進協会 法人概要

1 設立目的及び概況

(1) 設立目的

この法人は、持続性可能な社会、すなわち低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現するため、市民・事業者・行政・教育機関と連携を強め、広く環境保全活動を推進することにより、環境に配慮した市民の自主的な行動による地域社会づくりに寄与することを目的とする。

(2) 概 況

ア 設立年月日

平成 13 年 2 月 14 日

イ 出捐金

金 50,000,000 円（全額京都市出捐）

ウ 実施事業

- (ア) 環境意識の普及，啓発に関する事業
- (イ) 環境情報の発信事業
- (ウ) 環境保全に関する調査，研究に関する事業
- (エ) 環境教育及び人材育成に関する事業
- (オ) 環境保全のための市民，事業者等との連携，支援に関する事業
- (カ) 環境意識の向上のための国際的な連携，支援に関する事業
- (キ) 環境保全活動に関する施設の管理運営
- (ク) その他，この法人の公益目的を達成するために必要な事業

2 役員等の状況（平成27年3月31日現在）

(1) 役員等の数

理事長 1人 専務理事 1人
理事 7人 監事 2人 評議員 12人

(2) 役員等名簿

ア 役員名簿

（敬称略・順不同）

役職	氏名	備考
理事長	高月 紘	京都大学名誉教授
専務理事	新喜 富雄	公益財団法人京都市環境保全活動推進協会事務局長
理事	杵本 育生	特定非営利活動法人環境市民代表理事
〃	田浦 健朗	特定非営利活動法人気候ネットワーク事務局長
〃	橋本 直子	株式会社 Hibana 代表取締役
〃	花田真理子	大阪産業大学大学院人間環境学研究科教授
〃	久山喜久雄	フィールドソサイエティ代表
〃	水山 光春	京都教育大学教授
〃	宮崎 秀夫	京都市環境政策局地球温暖化対策室担当部長
監事	野村 克章	税理士
〃	三宅 英知	京都市環境政策局環境企画部長

イ 評議員名簿

（敬称略・順不同）

役職	氏名	備考
評議員	浅利 美鈴	京都大学環境科学センター助教
〃	市川 智史	滋賀大学環境総合研究センター教授
〃	土山希美枝	龍谷大学政策学部准教授
〃	中田富士男	京都市ごみ減量推進会議理事
〃	永橋 爲介	立命館大学産業社会学部教授
〃	長屋 博久	有限会社村田堂取締役
〃	原 強	特定非営利活動法人コンシューマーズ京都理事長

〃	馬屋原 宏	京都市環境政策局地球温暖化対策室長
〃	岡田 寛子	株式会社京都銀行公務部長
〃	糸 善子	有限会社思風都代表取締役会長
〃	周 瑋生	立命館大学政策科学部教授
〃	田中 克	京都大学名誉教授

3 理事会・評議員会の開催状況

(1) 理事会

	開催日	審 議 事 項	結果
第1回	平成26年 5月30日	議第1号 平成25年度事業報告書 議第2号 平成25年度決算報告書 議第3号 主たる事務所の所在地の変更 議第4号 理事及び監事候補者の推薦 議第5号 理事長（代表理事）の選定 議第6号 専務理事（業務執行理事）の選定 議第7号 常勤役員（専務理事）の報酬額 議第8号 役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程の一部を改正する規則 議第9号 非常勤役員である代表理事（理事長）の報酬額 議第10号 事業運営委員会設置規則の制定 議第11号 理事の利益相反取引に係る承認	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認
第2回	平成26年 7月1日	議第1号 主たる事務所の所在地の変更（移転日について） 議第2号 平成26年度事業計画及び予算（報告事項） 議第3号 今後の事業運営について	承認 承認 承認
第3回	平成26年 12月9日	議第1号 今後の事業運営に係る総合戦略検討小委員会まとめ（案）と今後の方向性について 議第2号 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について（報告事項） 議第3号 京エコロジーセンターの保守管理上の諸問題について（報告事項）	承認 承認 承認

第4回	平成27年 3月18日	議第1号 平成27年度事業計画書(案)について 議第2号 平成27年度予算書(案)について 議第3号 諸規則の改正(案)について 議第4号 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について (報告事項)	承認 承認 承認 承認
第5回	平成27年 3月22日	議第1号 平成26年度第2回評議員会の招集について	承認
第6回	平成27年 3月31日	議第1号 専務理事選定について 議第2号 理事への使用人職務の委嘱(重要な職員の任命)について	承認 承認

(2) 評議員会

	開催日	審 議 事 項	結果
第1回	平成26年 5月30日	議第1号 平成25年度事業報告書 議第2号 平成25年度決算報告書 議第3号 役員(理事)の選任 議第4号 役員(監事)の選任 議第5号 役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程の一部を改正する規則の制定	承認 承認 承認 承認 承認
第2回	平成27年 3月23日	議第1号 評議員の選任(案)について 議第2号 理事の選任(案)について	承認 承認

4 職員数の推移 (平成27年3月31日現在)

(単位:人)

年 度 末	理 事 長	専 務 理 事	総 務 課						事 業 課						合 計	
			事 務 局 長	課 長	課 長 補 佐	派 遣 職 員	事 務 職 員	小 計	部 長	課 長	課 長 補 佐	事 業 職 員	研 修 職 員	臨 時 職 員		小 計
26	1	1	(1)	(1)	1	1	3	5	1	1 (1)	2	7	5	3	19	26

※事務局長及び総務課長は、専務理事が事務取扱としている。また、事業課長のうち1名は、事業部長が事務取扱としている。事務取扱対象者には、()で表示をしている。

Ⅱ 平成 26 年度実施事業内容

1. 公益目的事業

[1] 京都市環境保全活動センター（京エコロジーセンター）指定管理業務

（1）いろいろな主体が学び、育つステージの提供

● 1-1 館内・館外の環境学習プログラムの開発、実践

ア プログラム開発・センター学習対応

京都市青少年科学センターが実施する、京都市内小学校向け学習（以下、センター学習）の受け入れに関し、学習内容の理解や子どもとの関わり方を学び、より学習効果が高いプログラムを実施するために、ボランティアスタッフ対象の研修を 4 回実施しました。また、学校現場における環境教育の担い手を育て、学校現場で環境教育がより一層推進されることを目的に、京都市教育委員会と協働で全教職員を対象にした環境教育研修講座を企画・実施しました。

イ 団体見学調整・対応

団体見学では、国内はもとより海外からも多くの団体に見学にお越しいただきました。年間で団体見学は175件6,091名、センター学習は147校4,354名、あわせて322件10,445名の受入れを行いました。そのうち、京都市環境政策局循環企画課主催の「エコバスツアー」を19件受け入れ、中でも「エコクッキング編」は好評で、12件の受入れを行いました。また、団体見学の参加者やセンター学習の引率者向けのアンケートを実施し、スタッフへのフィードバック等に活かしています。

ウ 環境副読本

毎年、小学4年生、5年生、中学生向けの3種類の環境学習に役立つ環境副読本を作成し、京都市内の全小中学校に配布しました。総合的な学習の時間はもちろん、各教科内で環境をテーマに学習する際に活用されています。また、小学生5年生向けの環境副読本には、各テーマのインタビュー記事の掲載とあわせて、学習の補助教材として活用できるインタビュー動画を作成しました。

■環境副読本インタビュー動画ホームページ <http://www.miyako-eco.jp/advice/>

エ 常設展示

7月18日に累計来館者数が100万人に到達したため、7月～9月の3か月間、参加型の

記念展示を設置しました。6月からは、上下水道局と協働で、雨水浸透柵の模型を設置し、3月には関連イベントを開催しました。2月には、全国の小規模博物館の連携のための「第6回小さいとこサミット」を誘致し、前日イベントを含め581名の参加がありました。また、展示作業部会では、「展示開発ガイドライン」の改訂を行い、今後の展示事業の方向性がまとまりました。

事業実施日	内容
7月18日（金）	来館者100万人達成 記念式典の開催
6月～	雨水浸透柵の設置、関連イベントの実施（3月15日）
2月11日（水・祝）	エコセンまるごとひとりいちにち展開催（ちいさいとこサミットプレイイベント） 参加者：500名
2月12日（木）	第6回小さいとこサミット開催 参加者：81名
展示作業部会実施日	作業部会委員：理事長高月紘、久山喜久雄氏（フィールドンサイエティ）、北村彰氏（アイデアルデザイン製作所）、高田研氏（都留文科大学）
12月24日（水）	展示作業部会準備会（高田氏との協議）
1月13日（火）	展示作業部会準備会（北村彰氏との協議）
1月28日（水）	第1回展示作業部会開催「展示作業部会に関する協議」
2月24日（火）	第2回展示作業部会開催「展示開発プラン策定について」
3月11日（水）	第3回展示作業部会開催「展示開発ガイドライン修正」
3月25日（水）	第4回展示作業部会開催「展示開発ガイドライン完成」

オ 企画展示・企画展関連イベント

8～9月に開催した「エコ住宅素材展」では、新たに「京都市産材端材展示」とその関連イベントを実施しました。同じく8～9月には並行して、1階エントランスを活用した「うちわ展」とイベントを開催しました。12～1月に開催した公募型企画展では、リースを軸に事務用品の再使用を推進する事業者と協働で企画展を実施しました。また、2～3月は、環境ボランティアグループ「展示部」が企画した「ひとりいちにち展」を開催しました。

期 間	タイトル（共催の相手等）
6月1日～6月30日	もったいないばあさんワールドレポート展 （真珠まりこアトリエ事務所）※イベント事業での開催
8月1日～9月28日	第11回エコ住宅素材展（関西自然住宅推進ネットワーク）
8月9日～9月30日	うちわ展～竹の産地深草から～（NPO法人深草ふれあい隊・竹と緑）

11月5日～11月5日	京都まちとみどり写真コンクール入賞作品展 (京都府都市計画協会)
12月5日～1月31日	環境カレンダー原画展～みどりってなあに?～ (日本環境保護国際交流会)
12月9日～1月31日	菴連也展・広友ホールディングス株式会社環境事業取り組み 紹介展(広友ホールディングス株式会社)
2月7日～3月31日	ひとりいちにち展～あなたはどれくらい?～(環境ボラン ティアグループ「展示部」)

カ ちきゅまるひろば

ちきゅまるひろばとは、スタッフによる申込不要のミニプログラムで、毎週日曜日、さらに夏休み期間は毎日開催しました。年間で70回延べ955名が参加しました。プログラムは、館内の展示やスタッフの個性を生かし、水資源や交通の問題等、毎回違ったテーマで参加者が楽しく環境について学べるようにプログラムを企画・実施しています。定期的にプログラムを行うことで、ちきゅまるひろばを目当てに来た新規来館者やリピーターが増えてきました。

キ 出前講座

学校や地域コミュニティ等に出向き、クライアントのニーズに合わせた、様々なテーマの出前講座を企画・実施しました。学校で緑のカーテンを始めるにあたって、その効果を体験する講座や、生物多様性の重要性について体験するもの、環境に配慮した買い物について体験するもの等、テーマに合わせて体験を中心とした出前講座を行いました。平成26年度は8件の出前講座を企画・実施しました。

●1-2 環境ボランティアの育成、支援

ア エコメイト養成講座

本講座は、来館者とのコミュニケーションを図るために必要な知識、技術を習得することを目的とした講座で、センターの環境ボランティアとして活動するために、受講を必須としています。講座は、ボランティア活動の基礎、グループコミュニケーション、環境問題の基礎、環境学習プログラムの基礎、企画、実践等の座学及び実習を含んでおり、26年度は12月～3月の間に計6回(7日間)開催しました。

(応募者24名、受講者22名、登録者22名)。

	期日	タイトル
第1回	12月7日(日)	ボランティア事始め
第2回	12月20日(土)	学習・活動グループ運営きほんのき

第3回	1月18日(日)	環境問題きほんのき
第4回	1月31日(土)	環境学習きほんのき
第5回	2月14日(土), 15日(日)	環境学習の場をつくり・まわすきほんのき
第6回	3月15日(日)	これからのエコメイト活動に向けて&登録説明会

イ ステップアップ研修

環境ボランティア「エコメイト」は3年間の任期修了後、地域での環境保全活動を広げる役割を期待されています。このため、3年間の活動がより充実したものとなるよう、月1回程度の頻度で研修を企画・実施しています。昨年度に引き続き、任期期間中に体系的に学べるよう研修カリキュラムを作成し、実施しました。平成26年度は、環境問題の知識を得るための研修や、コミュニケーションの取り方、環境学習プログラムの企画・実施方法など、様々な研修を11回実施しました。

ウ マネジメント全般（ボランティア部・会の支援等）

環境ボランティアは、展示の案内・解説、環境学習プログラムやイベントの企画・実施を通じて環境に配慮したくらしを来館者と一緒に考え、広める役割を担っています。そのような活動をより活発にするために、ボランティア同士の交流促進（ボランティア部）、活動意欲の維持・向上（全体マネジメントの会）、活動における不安解消・課題解決（ボランティア全体ミーティング）、ボランティアの主体性を引き出すための活動支援（会の支援）等を行いました。

ボランティア部による交流会	10月5日, 12月13日, 3月1日
全体マネジメントの会	4月6日, 9月21日, 3月22日
ボランティア全体ミーティング	5月17日, 8月3日, 11月22日, 2月1日

●1-3 子どもから大人まで環境人づくり

ア えこそら屋上部

屋上の田畑やビオトープを活用し、「自然や食の循環と暮らしとのつながり」を学ぶことのできる場を作っています。小学1~4年生とその家族を対象とした通年プログラム「えこそらキッズ」に加え、夏休みイベント「生きもの探偵団」を実施しました。参加者だけでなく、ボランティアが参加者との関わり方について学ぶ場にもなっています。また、屋上の草刈等の管理作業や生物調査・記録とその結果を伝えるための掲示板を設置しました。

えこそらキッズ参加登録数	子ども（兄弟含む）33人, 大人21人
--------------	---------------------

	期日	タイトル
第1回	4月26日(土)	オープニングオリエンテーション・ビオトープ観察・田畑の耕耘
第2回	5月10日(土)	緑のカーテン・夏野菜の植付
第3回	5月24日(土)	田植え・夏野菜の植付・イチゴ収穫
第4回	6月7日(土)	野菜の世話・ダイショ・草刈・玉ねぎ収穫
第5回	6月28日(土)	かかし作り・生きもの観察
第6回	7月19日(土)	収穫・生きもの観察
第7回	8月2日(土)	収穫・藍染
第8回	8月23日(土)	収穫・冬野菜の種まき・イチゴ苗世話
第9回	9月6日(土)	冬野菜の種まき・草刈・生きもの観察
第10回	9月20日(土)	緑のカーテン片づけ
第11回	10月4日(土)	稲刈り・落花生収穫
第12回	10月18日(土)	芋ほり・野菜の世話・イチゴ定植
第13回	11月1日(土)	ミミズの世話・ゴマの種採り
第14回	11月15日(土)	お米の脱穀・もみすり・ダイショ収穫
第15回	12月6日・12月20日(土)	エコクッキング
第16回	1月10日(土)	旬の食べものゲーム
第17回	1月24日(土)	土づくり・糸紡ぎ・絵巻づくり
第18回	2月7日(土)	絵巻づくり
第19回	2月21日(土)	発表会・修了式

イ 環境教育リーダースタートアップ講座 2014

環境教育実践の担い手を育てるため、全6回の連続講座を実施しました。講座では、環境教育の概論、自然体験、まちづくり、ライフスタイルの変革、伝える技術をテーマに、座学や体験を交えて、プログラムの企画から実践までのプロセスを体系立てて学べるよう講座内容をデザインしました。最終日には、企画したプログラムの実践を行い、修了生や講師からフィードバックを得ることで、講座終了後の実践に繋げる講座内容にしました。

ウ 自然エネルギー学校・京都 2014

自然エネルギー学校では、「ポストFITの市民共同発電所」をテーマに、自然エネルギー普及の担い手として活動できる人材の育成を目指し、全5回の連続講座を実施しました。講座では、法律・金融・政策・技術を中心に学び、計画づくりやコーディネート能力を高めました。今年度の講座では、事例紹介を全員過去の修了生で行いました。修了生

に発表してもらうことで、修了生と受講者を繋げるネットワーク形成の場としても講座を活用することができました。

エ 京都教育大学授業

京都教育大学の夏期集中講座「環境教育の実践・環境ファシリテーター入門」(5日間)を企画運営しました。講座は環境教育の理解、環境学習プログラムの企画実施、プログラム実施のための効果的なコミュニケーション手法について、体験と講義をまじえて体系立てて学べる内容としました。最終日には公開演習として受講生が作成したプログラムをセンターの来館者を対象に実施しました。今年度は京都教育大学を含めて、5大学から11名が受講しました。

期日	講座内容
8月11日(月)	オリエンテーション・環境教育講義
8月12日(火)	環境教育の理解
8月13日(水)	環境学習プログラムに関する体験・講義
8月16日(土)	コミュニケーションに関する体験・講義
8月17日(日)	公開演習「教えて！エコ先生！」

オ 大学生インターンシップ受け入れ

インターンシップでは、9名の大学生を受け入れました。夏休み期間を中心に、来館者対応やイベントのサポート、ミニプログラム「ちきゅまるひろば」の企画・実施など、京エコロジーセンターの様々な業務を行いました。こうした体験を通して、環境教育プログラムづくりのノウハウだけでなく、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力など、様々なノウハウやスキルを身につけた人材育成を実施することができました。

カ かえっこバザール

かえっこバザールは、全国共通ルールで運営されるおもちゃ交換の仕組みです。センターでは、環境ボランティアによる運営や館内展示の案内、「エコセン通い帳」(後述)等を組み合わせ、センターならではの運用をしており、多くのファンを獲得しています。今年度は、年間スケジュールを当初から告知できたため、多くの初参加者を獲得することができました。また、2月にはかえっこ考案者の藤浩志氏をお招きし、講演会を2日間開催しました。

開催日	内容の特徴	参加者数
6月8日(日)	企画展連動イベント「かるた大会」実施	100人
8月14日(木)	通い帳と連動したプログラム・展示室見学ツアー実施	154人

8月15日（金）	通い帳と連動したプログラムの実施 他事業との連携（インターン生のスタッフ参加）	109人
10月19日（日）	通い帳と連動したプログラムの実施	42人
12月7日（日）	水力発電実験コーナー・企画展見学ツアー実施	97人
2月11日（水・祝）	藤浩志氏講演会「あるもので何かする視点」開催 （京都市ごみ減量推進会議との共催）	40名
2月12日（木）	小さいとこサミット内で「かえっこ」の事例発表	81名
2月15日（日）	通い帳と連動したプログラム・企画展見学ツアー・大人向け展示室見学ツアーの実施	139人

合計 641人（平均107人/回）

キ 職場体験受け入れ

京都市教育委員会による「生き方探究・チャレンジ体験」の受け入れを行いました。例年の団体見学の受け入れのサポート活動に加えて、ボランティアにインタビューレススタッフ紹介の記事を書く、図書コーナーの本を借りて本の紹介ポップを作るなど、新しい活動も実施し、来館者向けに生徒の活動成果を残しました。また、事前訪問の際に希望の活動を聞き、屋上の生きもの調査の活動も行い、充実した体験となるように工夫しました。

実施校	受入期間 ※木曜除く	受入人数
洛南中学校	5月27日（火）～30日	2名
藤森中学校	11月5日（水）～7日（金）	4名
深草中学校	11月11日（火）～12日（水）	3名
加茂川中学校	11月10日（月）～14日（金）	4名
伏見中学校	1月20日（火）～21日（水）	4名

（2） いろいろな主体による環境保全活動への支援と連携

● 2-1 地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携

ア 地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携

地域の団体が環境をテーマに活動を行う際、京エコサポーター（エコメイトの任期を修了した環境ボランティア）を中心に環境学習プログラムを実施することで、環境活動を支援しています。26年度は、省エネ・ごみ減量に関する講座形式のプログラム、発電の仕組みを体験できるブース出展形式のプログラムを実施しました。その中で、述べ115名の京エコサポーターが、24回の学習会、18回のブース出展を企画・実施しました（※

「エコ学区事業」「くらしの匠事業」含む)。

● 2-2 NPOをはじめとする環境保全活動団体への支援・連携

ア 環境保全活動助成

市民による環境保全活動が継続され、ステップアップしていくことを目的に、活動の段階や規模に合わせて3つのタイプ(上限100万円, 10万円, 5万円)の助成事業を行いました。平成26年度は3タイプ合わせて7団体の事業を採択しました。各助成事業終了後には、各団体がノウハウや情報の交換を行うことのできる機会、センターへ期待する支援について意見を交換する場として、活動成果報告会を開催しました。また、採択団体以外も対象とした「助成金申請スキルアップ講座」も開催しました。

平成26年度採択一覧：事業名(団体名)

【タイプA：上限100万円】
・京都モビリティウィーク&カーフリーデー2014(京都カーフリーデー実行委員会)
【タイプB：上限10万円】
・「竹検定」の開催(京都竹カフェ)
・鴨川生き物調査(特定非営利活動法人ビオトープネットワーク京都)
・「家庭の省エネアドバイザー養成研修会」「家庭の省エネアドバイザースキルアップ研修会」(省エネ普及ネット京都)
・京町家で暮らし文化をみつめよう「京町家なう」2014(京町家なう,)
【タイプC：上限5万円】
・グリーンウッドワークリーダー養成講座(自然住宅情報ひろば)
・温故知新!大発見,小水力発電の魅力(比叡の里ハッピーライフ研究室)

(3) 持続可能な地域社会への提案, 情報発信と交流

● 3-1 情報発信・広報対策

ア 図書

センターの環境図書コーナーでは、約7,000点の資料(図書・雑誌・視聴覚資料等)を通じて、環境問題や環境学習に関する情報を発信しています。26年度の利用状況については、資料の貸出が2,260冊、ビデオ・DVDの利用が2,302人、新規図書カード登録者が150人でした。また、容易に資料を探せるよう、図書の分類変更、検索システムのリニューアルを行いました。また、除籍資料を市民の方に譲渡するイベント「ほん・で・リング」を開催するなど、図書コーナーの認知度向上に努めました。

イ 通い帳

ボランティアや職員との関わりを通じて、センターの展示やエコへの学びが深まることを目的とした「エコセン通い帳」を運用しています。「チャレンジカード」に書かれたエコなクイズや指令をクリアするとスタンプがもらえる仕組みで、スタンプを10個集めた参加者には「エコの達人認定証」を授与しています。楽しくエコを学びながら継続的な来館を促すツールとして活用しており、通い帳を通じたリピーター（ファン）の増加にもつながっています。

平成26年度 通い帳発行部数 約1500枚 うち、10回以上継続して来館した参加者 50名以上
--

ウ 出展

センター事業のPRや環境意識の啓発等を目的に、地域のお祭りや環境イベント等へのブース出展を行っています。職員や環境ボランティアが体験を交えたプログラムを実施し、来場者が環境について考える機会を提供しています。平成26年度は39件の出展を行い、ブース来場者は4,970名でした。また出展の際には、「エコセンのPR・広報」「環境関係団体等との関係性構築」「地域各種団体との関係性構築」といった目的ごとに分類し、目的に応じた実施体制を整えました。

平成26年度実績	出展数 39件	ブース来場者数 4,970名
----------	---------	----------------

エ 広報・プロモーション

ホームページやブログサイトと、ソーシャルメディア（Facebook, twitter）を連動させ、センターの情報に多くの人に触れることができるような情報発信を意識的に行っています。また、年間を通じた広報計画を立て、効果的かつ効率的に、魅力的な情報を届けるための工夫を行っています。大型イベントやセンター事業の魅力を発信するためのプレスリリースにも力を入れ、多くのWEBや、新聞等のメディアにイベントの様子や事業の紹介が掲載されました。

プレスリリース（紙媒体）
経済記者クラブ・市政記者クラブ等へのプレスリリース…7回 新聞記者への直接プレスリリース…多数 新聞等掲載実績…20件以上
WEBリリース
7月（来館者100万人達成） 222媒体へ配信 35媒体に掲載 9月（環境ボランティア「エコメイト」募集） 169媒体へ配信 38媒体に掲載

オ 季刊誌「えこせん」

季刊誌「えこせん」を隔月で年 6 回、毎号 3,000 部作成・発行し、市内各所に配布しました。季刊誌のコンセプト「京のくらしと人とエコ」にあわせて、センターの活動や魅力を広く発信し、来館促進につなげるために、ターゲットとなる親子層を意識した誌面づくりをおこなっています。なかでもスタッフが登場するマンガコーナーは読者からの反響も大きく好評を得ています。また、季刊誌をより多くの方に届けるために、配架先の新規開拓にも取り組みました。

カ イベント情報紙「えこいべ」

主に親子を対象としたイベント情報を広く一般に広報するため、A 4 半折りの紙媒体「えこいべ」を毎月発行しています。平成 26 年度は、前月に開催したイベントの様子を掲載するなどの試みを取り入れました。毎回約 3,500 部を印刷し、市内の公共施設等に配架しています。また、小学校の夏休み期間に開催するイベントを特集した A 3 半折りの紙媒体「えこいべ夏休み特大号」は、近隣小学校など 35 校に約 14,500 部配布し、掲載したイベントのほとんどが定員に達しました。

キ ネットワーク形成

関係機関・団体との連携を強化することを目的に、各種委員会・ネットワーク等に参画しています。平成 26 年度は、京都グリーン購入ネットワーク普及啓発部会、環境 NGO が主宰する生物多様性環境学習プログラム作成のワーキンググループ、地球環境関西フォーラム環境教育・啓発部会、全国ボランティアコーディネーター研究集会実行委員会、科学の祭典京都大会実行委員会等に参画しました。また、日本環境教育学会に参加し、センター事業と実績について発表を行いました。

ク 京都・環境教育ミーティング

「新しい場づくりと環境教育ミーティングのこれから～ESDの視点を含め、環境教育をじっくり考えよう～」をテーマに、第 11 回京都・環境教育ミーティングを実施しました。今回は初の試みとして 2 日間開催とし、これまでになかった 3 時間ワークショップや ESD に関する講演のほか、環境教育の現状と課題出し、および今後求められる新しい場づくりについて考える参加者全員でのワークショップを実施するなど、これまでよりも濃いミーティングとなりました。

● 3-2 イベント（プログラム）の企画と実施

ア イベントの企画と実施

参加者が環境問題の現状を知り、暮らしの中で実践するきっかけとなる、多様な切り口によるイベントをパートナーシップで企画・実施しています。2014年度は、他事業との連動を意識したスタッフイベントも開催したほか、新たな参加者層獲得につながるような企画や共同主催型の大イベントも開催しました。昨年度改定した参加者アンケートからは、過去に参加したイベントをきっかけに「家庭でも意識するようになった」などの声を読み取れるようになっていきます。

2014年度イベント事業総参加者数：4,226名

2014年度イベント事業総実施件数：103件（1000名規模の大イベント開催は3回）

開催日	イベント名	実施協力
4/21	京エコロジーセンター開館12周年記念&アースデイ記念イベント 「きょうのごはんに大感謝祭！～地球とつながるみんなの暮らし～」	18ブース（15団体）
5/6	木のおうちをつくろう！～木が森から人にとどくまで～	oguma くらし製作所
5/21	丁寧に暮らす 日々のお料理教室	料理研究家 力石幸
5/24	丁寧に暮らす 日々のお料理教室	料理研究家 力石幸
6/1	初夏のエコセン映画会『くもりときどきミートボール』 3回上映	京都映画センター
6/22	「あるもん」でチャレンジ！親子で楽しむアイデアおむすび♪	京都・暮らしのREデザイン研究室
6/29	もったいないばあさんのおはなし会	真珠まりこアトリエ事務所 真珠まりこ
6/29	企画展ギャラリートーク	真珠まりこアトリエ事務所 真珠まりこ
7/6	まだ間に合う！みどりのカーテン講習会 2回開催	公益財団法人京都市都市緑化協会 京都市地球温暖化対策室
7/13	エコマートでお買い物～環境にやさしい買い物を考えよう！～	ボランティアグループ イベント部
7/26	夏のエコセン映画会『くもりときどきミートボール2』 3回上映	京都映画センター
7/27	夏やさいたっぷり！こどもクッキング	食と環境のひろば・Leaves
7/28	世界初のガラスおこしをやってみよう！ 2回開催	アルクヴェール 尾合恭代
7/30	わくわく自然エネルギー～太陽光発電のあるおうちをつくろう！ 2回開催	幼児のための環境学習プログラム作成の会
8/3	夏やさいたっぷり！こどもクッキング	食と環境のひろば・Leaves
8/8	～親子で学ぼう～宝酒造エコの学校 2回開催	宝酒造株式会社
8/9	つくってあそぼう！もくもく木のおもちゃ 5回開催	木のおもちゃ Let Wood Be 中山 カズト氏
8/12	こどもボトルアクアリウム教室 2回開催	京都の水草専門店アクアショップ ワサビ
8/15	葉っぱで染めよう！アイの生葉染め体験	スタッフ企画
8/19	わくわく自然エネルギー 2回開催	幼児のための環境学習プログラム作成の会

8/20	葉っぱで染めよう！アイの生葉染め体験	スタッフ企画
9/7	糸紡ぎ体験	大石尚子氏
9/7	糸紡ぎワークショップ	大石尚子氏
9/23	木のとりさんマグネットをつくろう！ 2回開催	スタッフ企画
9/27	素材を生かす！旬のお料理教室	料理研究家 杉本節子
10/11	エコマートでお買い物～環境にやさしい買い物を考えよう！～	ボランティアグループ イベント部
10/26	手づくりしよう！やさいで楽しむ三色だんご 2回開催	日本環境保護国際交流会
11/2	紙フェス in 京都～遊びと学びの紙の世界～	京都市ごみ減量推進会議
11/5	素材を生かす！旬のお料理教室	料理研究家 力石幸
11/15	冬の京野菜であったかごはん～京のくらしに学ぶエコ～	料理研究家 杉本節子
12/14	エコ虫レンジャーを探せ！ 2回開催	ボランティアグループ イベント部
12/14	キッズカメラ体験会	京都工芸繊維大学 工芸科学部
12/15	行事を楽しむ♪健康お料理教室	料理研究家 力石幸
12/21	ひとときフェスタ～まちで森とつながる暮らし～	18 ブース (22 団体)
12/23	行事を楽しむ♪健康お料理教室	料理研究家 力石幸
12/23	No Vegetable No Life ～野菜のイトコミーつけた！～	龍谷大学政策学部学生グループ伏見わっしょい新党
1/11	エコ虫レンジャーを探せ！	ボランティアグループ イベント部
1/17	虫ってどんな味？昆虫料理を食べてみよう！	昆虫料理研究家 内山昭一氏
1/24	ひつじ年にピッタリ！羊毛からストラップを作ってみよう！ 3回開催	有限会社 村田堂
1/25	毎日の食卓に！おうちで味噌づくり	食と環境のひろば・Leaves
2/4	体験学習ツール体験会	京都工芸繊維大学 工芸科学部
2/28	農家さんに学ぼう！おいしいお米のクッキング	(有)かみなか農楽舎
3/7	やってみよう！環境いろはかるた 3回開催	ボランティアグループ イベント部
3/8	Ecology × International ～えこいん話～ vol.5	認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス, JICA 京都デスク
3/28	ぷくぷく天然酵母のパン作り～フォカッチャ編～	IL cileoChez 大東澄江, le Botaniste 北村 順子
3/29	春のエコセン映画会『ミニスキュル～森の小さな仲間たち～』	京都映画センター

【2】受託事業

(1) エコ学区に係る学習会等支援業務

京都市との協働により、元学区を単位とする地域コミュニティにおけるエコ活動を促進することにより、ライフスタイルの転換と増加傾向にある家庭部門での温室効果ガス排出量削減を地域ぐるみで効果的に実現するため、地域活動にエコの視点を加え、各学区におけるエコ活動が円滑に進むよう、地域に地球温暖化対策をはじめ

めとするエコロジーに関する知識やエコ活動に関する知恵等を提供した。

■エコ学区に係る相談窓口業務

京エコロジーセンター活動支援室に「エコ学区サポートセンター」を開設し、(平日 10~18 時) 地域ぐるみのエコ活動についてのワンストップサービスの相談窓口として対応した。エコ学区として宣言した **200** 学区に対し、支援物品の企画・調達・配布、学習会等の実施などで地域ぐるみのエコ活動を促進した。

1 年間で計 **300** 回を超える学区へのヒアリングやエコ活動の現場取材、地域への直接アプローチを行うなど、ニーズに合わせ迅速に対応した。

■学習会実施

計 **38** 回 (1 ヶ月あたり約 **3** 件) 実施。(大人 **756** 名・子ども **698** 名参加)

■省エネプログラムの実施促進

くらしの匠 (**5** 学区/合計 **20** 回集会実施), うちエコ診断 (計 **206** 世帯実施)

■エコ学区チャレンジプログラム

公募により **5** 学区に対し、創エネ・エコ×防災など多様な連続プログラムを実施。

■環境情報の発信

学習会実施時に、季刊誌「えこせん」を配布するとともに、京エコロジーセンター事業では届かない層へ環境情報の発信を行った。

(2) くらしの匠業務

地域的なつながりのある住民同士が **15** 世帯前後のグループをつくり、「くらしの匠」と呼ばれる環境ボランティアとともに取り組むことで、互いに情報・意見交換をしながら、楽しく省エネを進める事業である。

京都市「エコ学区」事業の一環として、上京区の桃菌学区・出学区・乾隆学区、伏見区の砂川学区、下京区の修徳学区の **5** 学区で本事業を実施し、それぞれ一世帯あたり平均 **4.6%・1.1%・9.6%・2.9%・10.9%** の電気消費量を削減することができた。さらには、本事業に参加された方が発信者となって近所の人に省エネ方法を広めるなど、学区の中で広く省エネの意識を高めることができた。

(3) 市民協働発電制度地域コミュニティ版支援コーディネーター派遣業務

京都市との協働により、地域のコミュニティ組織が主体となり、地域に太陽光発電や小水力発電など再生可能エネルギー利用設備を設置しようとする意欲的な取組を支援するため、地域住民の合意形成をはじめ、再生可能エネルギーを活用した発電事業に関する調査や事業化の検討等を行うコーディネーターを **10** 地域に **11** 回派遣した。

(4) JICA 関西課題別研修「廃棄物管理能力向上（応用，計画・政策編）」

JICA 関西の実施する課題別研修「廃棄物管理能力向上（応用，計画・政策編）」を受託し，研修内容の企画及びコーディネートをしました。8 か国 9 名の，それぞれ国の政府や地方行政で廃棄物管理に関わる研修員を受け入れ，2 ケ月の研修を行いました。各研修員の国で直面している廃棄物問題の解決のヒントとなる講義や視察，実習等を行い，協会の強みとする市民への環境意識啓発や地域コミュニティでの環境活動支援のノウハウ等も研修に盛り込みました。

(5) 電気自動車の普及・啓発のための充電設備管理業務

CO₂の削減と低炭素社会の実現に向けて電気自動車の普及促進を図る。充電設備の利用で来館した市民に対し，操作方法の説明を行いました。

[3] 自主事業

(1) 森林・山村多面的機能発揮対策事業

林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金を受け，京都市左京区広河原の森林を活用した，親子向け森林環境教育イベントを 2 回実施しました。あわせて間伐等の森林整備を 3 回実施しました。イベントでは間伐体験や自然観察にくわえて，森と水のつながり，森と野生生物との関わりなどをテーマとした活動を行い，森林の現状や暮らしと自然とのつながりについて，都市部に住む人が体験を通して学ぶ機会を作ることができました。

実施日	タイトル/内容	参加人数
9/14	ひととき森の楽校 ～森と川の探検隊～ 内容：間伐体験と自然観察	12 名
11/30	ひととき森の楽校 ～猟師さんと森を歩こう！～ 内容：間伐体験と猟師による罾猟の実演および森の話	18 名

(2) イクレイ東アジア国際環境シンポジウムコーディネート業務

イクレイ東アジア地域理事会が京都で行われるのに合わせ「京都国際環境シンポジウム」が国立京都国際会館で開催され，教育分科会の企画運営業務を行いました。分科会では，中国，モンゴル，武蔵野市，国立環境研究所からパネリストを招聘しました。其々の事例を基に，これからの東アジア地域での環境教育を市民参加でどう進めていくかを，会場からの質問を交えながら意見交換しました。

2. 収益事業

[1] 貸出スペースの活用

(1) 利用状況

センターでは、会議室等の貸し出しを行っており、利用できるスペースは会議室2、視聴覚室(シアター)、リサイクル工房(実習室A)、エコ厨房(実習室B)が各1となっています。貸出スペースの認知度を上げるためにパンフレットや季刊誌「えこせん」等の効果的な広報等に取り組み、利用者数、利用率の向上に取り組みました。

平成26年度の年間利用回数は391回、利用人数4,360人となっており、同利用料金の実績は963,300円となっております。なお、利用料金は全額京都市の収入となります。

Ⅲ 附属明細書

平成26年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成27年5月

公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会

～一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則（抄）～

第34条 事業報告

3 事業報告の附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項をその内容としなければならない。